

# 真宗おおだ東

第 10 号  
2021.12.24発行  
発行所  
真宗大田東組  
組報編集部

## 重点プロジェクト

## みんなの寺子屋

### 地域で支える子どもご縁づくり

**事業の目的** 今日、子ども達の置かれている環境は、少子化、人口減少など様々な問題を抱えています。さらにコロナ禍により人と人との関わりも希薄になり、そこに「子どもの貧困」という状況を生み出しました。以前お寺や地域では「読み・書き・そろばん」を中心に、子ども達への家庭教育支援などが行われてきました。今一度お寺を核として、地域の皆様と共に子ども達に居場所を提供し、健全育成を図ることが重要です。このことは合わせて、地域の活力醸成にもつながります。具体的な考え方を

として、お念仏を通して「相手を尊重し思いやりの心」「お陰さまの心」「感謝する心」など、心の醸成を図ります。また、学習の見守りや食育、身体を動かすことなどで、心身共に成長させていくことを目的とします。



### 活動内容

▼第4日曜日午前10時～11時30分  
対象く小学生 現在11家族、児童保護者27名と13名のスタッフで活動しています。

●7月22日(日) 開校式 念珠型ブレスレットを作りました。

●8月22日(日) 宿題見守り、クラフトバックづくり、ソーメンを頂きました。

●9月26日(日) お彼岸にあわせて「おはぎ」を作りました。

●10月24日(日) わが町の歴史を知ろう「松山城」を散策しました。



会場：真浄寺に於いて

●11月28日(日) 子どもも報恩講 正蔵坊にお参りし、お話、紙芝居、お齋を頂きました。



●参加者保護者の感想  
「普段経験できないことをさせて頂きました。小さい頃にこのような体験ができることは、うれしいです。」  
●全部たのしかった。  
●けんちん汁が美味しかった。  
●山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。  
●参加者児童の感想  
「山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。」

●参加者保護者の感想  
「普段経験できないことをさせて頂きました。小さい頃にこのような体験ができることは、うれしいです。」

●全部たのしかった。  
●けんちん汁が美味しかった。  
●山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。

●参加者児童の感想  
「山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。」

●参加者保護者の感想  
「普段経験できないことをさせて頂きました。小さい頃にこのような体験ができることは、うれしいです。」

●全部たのしかった。  
●けんちん汁が美味しかった。  
●山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。

●参加者児童の感想  
「山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。」

●参加者保護者の感想  
「普段経験できないことをさせて頂きました。小さい頃にこのような体験ができることは、うれしいです。」

●全部たのしかった。  
●けんちん汁が美味しかった。  
●山登りが楽しかったから、もう一回登りたい。



# 門徒 総代部

立善寺住職

菅本了道

本年も新型コロナウイルスのため、6月3日に開催しました『理事会』により、『総会』は書面決議という形にすることにしました。

又例年ですと、9月中旬から10月上旬に行っています『研修会（研修旅行）』（本年は研修旅行の年となるのですが）も多くの人が集まっていた研修等も難しいと判断し、本年は「日々の暮らしと、『歎異抄』」井上見淳著、「毎日を仏法という鏡に」小池秀章著の2冊（ともに本願寺出版社）を選び会員に読んでいただき、研修会に代えることとしました。

前者は「歎異抄入門」となる本ですし、後者は仏教・親鸞聖人入門としてふさわしい本だと思えます。価格も165円（税込）と廉価ですし、皆様方にも読んでいただきたい本といえます。

読後の感想なり思ったことを会員の中から投稿いただきましたので、この『大田東組組報』に掲載いたします。

## 「在宅研修」と信心

善性寺門徒

小倉一義

昨年から猛威を振っているコロナウイルスの為、今年度も昨年に引続き総代会部門の総会、研修会が中止となり、書面決議及び教材配布へと変更になりました。

教材は、『日々の暮らしと歎異抄』『毎日を仏法という鏡に』の2冊です。その内1冊に親鸞聖人の、



正蔵坊門徒

青木正三

「煩惱具足の凡夫、火宅かたく無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはしますとこそ、おほせはさふらひしか」

浄土真宗に帰すれども

真実の心しんはありがたし  
虚仮不実こけふじつのわが身にて  
清浄しょうじやうの心しんもさらになし

の和讃の解説がありました。

私がUターンで故郷に帰って間もなく、お寺のご住職から大田東組のお手伝いを頼まれた時、私はまだ信心が足りませんからお断りしました。今思えば、信心が何も解らぬ身で生意気な事を云ったものです。その後、毎月いただいていた本願寺新報に先の和讃が載っていました。それを目にした時の

違和感を鮮明に覚えています。これは宗祖が云ってはいけない言葉ではないかと思つたのです。反面、なんて正直な人だろう、彼はいわゆる教祖ではなく、あくなき求道者なのだとも思いました。その時から何となく肩の力が抜け、信心定まらぬまま組の手伝いをさせてもらっています。

歎異抄もコマ切れの解説も必要だけど、無人島へは行けそうにないので、今の内に一度通読してみたいと思うようになりました。多分理解不能とは思いますが…。

歎異抄後序にある親鸞聖人のことばである。煩惱にまみれた私は、火の燃えさかっている家の中にいるような世に在り、うそやいつわりばかりでまことがないといわれている。火宅無常ということば以外はやさしいことばであるが、

生きている世をこのようにとらえることはなかなかできない。そらごと、たわごとといわれても、他人のことを思つてこんなになつてゐるのに……とつい思う。

私は仏教の本質は無我であると学んだ。我はない、我に非ず。無我の反対は有我、我が我がである。よかれと思つてやっていること、心底に我がのうごめきが常である。対立、いさかい、果ては戦争となる。それはまことか。

不可思議なはたらきにより、平等に人として命をいただき、不可思議な非我なるはたらきによって生かされていると思うことがまことと学んだ。

# 世界遺産として

## 国宝「西本願寺」について

皆さんの本山は数々の国宝が立ち並ぶお寺です。ここには国宝が7棟あります。全266の国宝のうち7棟を有する美の集結地なのです。

令和5年度の本願寺慶讃法要時に拝館できます。



### 阿弥陀堂

宝暦10年(1760)建立  
45m×42m 高さ25m  
本尊の阿弥陀如来像を安置する本堂です。



### 御影堂

寛永13年(1636)建立  
62m×48m 高さ29m  
宗祖や開山の像などまつる御堂。1200人が参拝できる畳。734枚を敷く大広間があります。



### 唐門

元和4年(1618)建立  
書院の正面に位置し、別名「日暮らし門」とも呼ばれます。



### 飛雲閣

天正8年(1580)建立  
26m×13m 高さ15m  
金閣・銀閣とともに京都3名閣のひとつ。3層楼閣建築。池に臨んだ舟入りを張り出す。豊臣秀吉公が造営した聚楽第からの移設説があります。



### 黒書院

明暦3年(1657)建立  
歴代門主のための数寄屋造風広間です。(非公開)



### 白書院

元和4年(1618)建立  
謁見のための大広間。御成の間といい、3室構成です。



### 北能舞台

天正9年(1581)建立  
我が国の能舞台の最古の遺構です。

## 私達にできること

寺族婦人会会長

熊野順子

私達寺族婦人会は、26名の会員で年2回の研修会の開催と、年1回の眺峰園での仏具磨きをさせていただいております。

昨年はコロナ禍で思うように活動できませんでしたでしたが、今年は感染対策などに気をつけながら、2回の研修会を多数の参加で開催することができました。

また、山陰教区の重点プロジェクト、(貧困の克服に向けて) Dana for World Peace 子どもたちを育むためにの一環である「フードバンク」「フードドライブ」活動にも会員の皆さんの賛同を得て、多数の品物を教区に送ることができました。

この活動は、いま目の前にある「貧困」や「見えない貧困」、「食品ロス」の解決に取り組み、一人でも多くの人たちが健康で生き生きとした生活が送れるよう「食」で支援する社会実践活動であります。

これらの活動を、持続可能な活動と据えて、これからも続けていきたいと思っております。

## 神棚について

真浄寺門徒 竹本嘉人

年間先祖の法事はお寺へお願いし、お正月の初詣は神社へ、自宅では神棚と仏壇が同居という生活には、昔からまったく違和感を持たずに過ごしてまいりました。

私も成人と同時に、お寺のお世話をするようになり、本願念仏のみ教えを聞かせて頂くことにより、卜占祭祀が必要でないと思うようになりました。ならば神棚は私にとって、もはや必要なものではない、という気持が強くなり、今から10年前、知人に勧められ、中央仏教学院の通信講座を学ぶにあたり、神棚を取り下げる決断をしました。

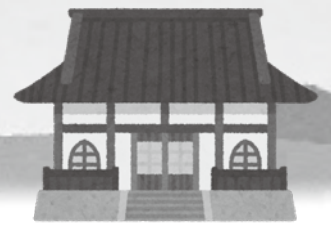
『歎異抄』の第七条に「念仏者は無碍の一道なり。そのいはれいかんとなれば、信心の行者には、天神・地祇も敬伏し、魔界・外道も障碍することなし」とお示しくださっています。

「人によっては科学的根拠から現世祈禱を批判されるかもしれませんが。しかし、私はそれどころか違うものではないかと感じます。親鸞聖人が生きられた時代は、いまから800年も前のことです。科学的な考え方は殆どなかったにも拘らず、決然と(卜占祭祀にはたよらない)と自らの立場をお示しになられた。これ自体が問題の所在が科学で解決するものではないことを伝えていきます。」

大谷光真著『今を生かされて』  
本願寺出版社より引用

現世祈禱などに頼ることなく弥陀一仏の救いに満ち足りたご恩報謝、神祇不拝の態度をもち、生活を送って行きたいです。

# 地域と寺院のご縁づくり



## 映画「沖縄戦」を観て

実践運動「平和と人権の集い」

担当 菅原 憲

本映画は本願寺宗門総合振興計画の一環で平和学習に資する視聴覚教材として本願寺派総合研究所が製作し、一昨年完成しDVDとブルーレイを全教区教務所に配布されました。一昨年12月に那覇市で行われた完成披露上映会の観客から、「軍事力は戦争の抑止力にはならず、市井(しせい)の人が犠牲になることが 理屈抜きでわかる映画」「一人でも多くの人に見てもらいたい」など一般上映を求める声が多く寄せられたことから昨年7月より映画館にて公開されていました。この度、山陰教区同朋社会部主催により、「平和学習のための映画上映会」として本映画が大田あすてらすホールにて上映されました。大田東組実践運動も共催という形で組内寺院、門徒合わせ50名が参加致しました。75年前の第2次世界大戦時、日本で唯一の地上戦がおこなわれた沖縄戦の悲劇を描いたドキュメンタリー。当時、劣勢だった日本軍の本土決戦準備の時間稼ぎのために沖縄は捨て石にされ、女性や子ども、老人までもが徴用され、戦闘協力を強いられました。さらに軍が県民に集団自決を強制し、死に切れない子どもを親が手を下して殺すという悲惨な光景も広がり、沖縄県出身の戦没者は12万2282人、当時の沖縄の人口の3人に1人が亡くなりました。沖縄戦の当時を知る体験者、専門家の証言、米軍が撮影した記録フィルムなどから、沖縄上陸作戦から、戦闘終了までが描かれてあります。当時、満州で戦線に立った俳優宝田明さんと、原爆の悲劇を描いた「きのこ雲の下から、明日へ」を上梓した斉藤とも子さんがナレーションを担当。監督は、原発事故を描いた「朝日のあたる家」を手がけた太田隆文氏。本願寺誓興寺寺族でもある。是非鑑賞できなかつた方は、教区で貸出をされていますので、所属寺院に問い合わせをしてご覧いただきたいと思います。最後に、そもそもこの映画製作のきっかけをつくられた、山陰教区因幡組光賢寺住職の故 西池文生さん的一方ならぬご尽力があったことをご報告しておきます。映画の製作中、急逝された西池さんに対して、太田隆文監督は「同じ年だった知人の使命を僕が果たす」として次のようなエンドロール献辞を述べておられます。「映画の製作にあたり、尽力された西池さんは鳥取のお寺の住職。彼が西本願寺の担当者に『沖縄慰霊の日に行こう』と誘い、戦跡を訪ねたことがきっかけで、沖縄戦プロジェクトがスタート。僕が参加して最初の沖縄行きでも、彼が案内してくれた。その年に急死。あとで、僕と同じ歳だと知った。沖縄を愛した彼が『この島を、沖縄戦を伝えてほしい』と、命がけで伝え、去って行ったように思える。そんな彼の魂が多くの人と引き合わせてくれたのかもしれない。」西池文生師に深く哀悼の意を表します。



## 子どもの貧困を考える

正蔵坊門徒 青木 正三

大田東組仏教壮年会連盟は、『「子どもの貧困」とは何だろうか?』というテーマの研修会を開催いたしました。

10月6日、波根立善寺に約30人の僧侶・門徒の参加があり、講演と意見交換を行い、子どもの貧困の現実を知り考えるよい機会を持つことができました。

講演を担当することになり、学童保育(放課後児童クラブ)の子どもたちの貧困について話をさせていただきました。私は、2013年から大田わんぱく児童クラブの運営委員長として児童の放課後生活に関わってきました。

『子供の貧困』(岩波新書)の著者、阿部彩さんは、「就学援助費を受給しているのは、貧困にほぼ近い所得の世帯に属する子どもたちといえる」と述べています。就学援助費は、給食費、学用品費、就学旅行費、PTA会費などが支給されます。そこで就学援助受給について数的実態をみると、2018年の調査では全国小中学校の子どもたちの受給率は、13.5%島根県15.3%です。一方、大田小学校は100人余りで26%、大田わんぱく児童クラブでは35%(2021年)です。大田小学校の児童の受給率は県の2倍近くですし、わんぱく児童クラブの児童の状況は一層重いといえます。全ての児童がすすすく育ってほしい願いから、親の貧困を支援するのが就学援助制度です。就学援助によって子どもの貧困が無くなるわけではありませんが、元学校事務職員であった友人は、「就学援助は義務教育の奨学金のようなもの」だといっています。

しかし、就学援助によって子どもの貧困が減少するといった単純なことではないのが現実です。学童保育の現場から見えることは、親が子どもと一緒に過ごす時間が少ないことによる問題です。親との会話によって付ける言語力や文化力、生活力、宿題等の学習力、将来への希望など、成長の大事なことが貧しくなる不安を抱えている学童保育の現場です。

仏教壮年会に集う私たち門徒はみな高齢となり、身近に子どもと接することが少ない状況にあります。とはいえ、永久の命をつないでくれる子どもたちが健やかに生きてほしいと願います。それぞれのお寺でささやかであってもできることを考えてみたいものです。



吾れ  
亦も  
紅こう

▲毎年、首相・閣僚の靖国神社参拝をめぐる問題が引きも切らず繰り返されている。2021年9月、自民党総裁選に出馬表明した女性議員が、テレビ番組で首相に就任しても靖国神社参拝を続ける考えを重ねて強調した。彼女はそのとき「私も信教の自由がある」としたり顔でのたまった。

▲はからずもその発言は、自分の立場をわきまえず、およそ「信教の自由」とは無縁な己れをさらけ出す羽目になってしまった。まさに語るに落ちたというべきか。

▲「信教の自由」(二十条一項)とは、国家对国民の関係において、国家の権力行使に制限を画するところに成立するものであって、そこで確保されるのは国民の側の自律性、独自性に外ならない。国家が一定の宗教に保護を与えたり、或いは援助するような姿勢をとることは一切してはならない。そうすることが国民の内面の自由を侵害する中心問題なのである。

▲「国家」という部分をしっかりと頭においておかないといけない。漠然とした自由ということではなく、中心は国家からの自由なのである。国家による内面への介入は耐え難い苦痛であるという国民一人ひとりの尊厳性に立つゆえに重要なのである。だから個人の尊厳を基本的理念とする憲法において国家の介入を絶対的に禁止しているのである。

▲このように、ごく基本的なことを確認するだけでも明らかにすることは、権力の立場にあるものに、そもそも「信教の自由」があるとかないとかという議論そのものが、すでに破綻しているといわねばならない。

(龍)



今から90年前の手書き経本 養蚕と木綿栽培に尽力した仏婦会員用

編集後記

新型コロナウイルスの拡大により、社会はリモートワークが推奨され、ネット環境が無ければ色々なことが回らなくなってきました。そのような流れの中、敢えて原稿を依頼し、紙媒体で大田東組のお知らせをしてゆく事が流れに逆行してはいないか? 言葉を大切に伝えるためには必要なことか?? の中での発行です。

(I.J.)

編集委員

- 菅原 憲  
竹村 一秀  
田中 俊光  
徳川 眞英  
渡邊 元文

(五十音順)

真宗おおだ東 <http://www.ohda-higashi.com>

<p>快適な旅のお手伝い!</p> <p>国内・海外旅行 バス・ホテル手配</p> <p><b>石見観光</b></p> <p>お申込み・お問合せ</p> <p>TEL(0854) <b>82-0663</b></p>	<p>本願寺出版社書籍取扱店 塗替修復承ります</p> <p><b>田中佛具店</b></p> <p>TEL 0854-82-1359 FAX 0854-83-7000</p>	<p>仏壇・墓石</p> <p>よりそうこころのまんなかに。</p> <p><b>ひょうま</b></p> <p>大田店 大田市大田町大田イ196-9 TEL <b>82-2663</b></p> 
---	--	--